

令和 3 年度春～夏学期末試験問題（筆記試験）

試験科目名	刑法基礎 1	教員名（署名）	豊田 兼彦
-------	--------	---------	-------

次の【問 1】～【問 3】に答えなさい。（80 点満点）

【問 1】（配点：30 点）

甲は、A を射殺する機会をうかがっていたところ、路上を歩いていた B を A だと思い、A を射殺しようと考え、B に向けてけん銃を発射した。弾丸は、B に命中し、さらに B を貫通して甲の視界の外にいた C と C の飼犬に命中した。これにより B が傷害を負ったが、この時点では死亡せず、C と C の飼犬が死亡した。

B は、病院において治療を受けたが、なお前記傷害により死亡する危険のある状態であったところ、B の入院中に何者かがその病院に放火して火災が発生した。B は、この火災で発生した一酸化炭素を吸引し、一酸化炭素中毒により死亡した。

甲の罪責について論じなさい（罪数関係に言及すること。）。

【問 2】（配点：35 点）

甲は、公園を散歩中、突然 A にバットで頭部を殴られそうになった。甲は、逃げる余裕があったのにその場にとどまり、A にバットで殴られるのを避けるため、たまたま所持していた B 所有の傘で A の顔面を殴打する暴行（第 1 暴行）を加えた。その結果、傘が壊れるとともに、A が転倒して頭部に傷害を負い、意識を失って動かなくなった。甲は、その状況を十分に認識しながら、憤激のあまり、A を足蹴にする暴行（第 2 暴行）を加えた。その後、A は、第 1 暴行から生じた傷害により死亡した。

甲の罪責について論じなさい（罪数関係に言及しなくてよい。）。

【問 3】（配点：15 点）

甲は、乙に対し、A から財布を盗むという内容の窃盗を教唆したが、教唆された乙は、現場で強盗に切り替え、A から財布を強取した。乙は、強盗を実行したとき、覚せい剤中毒により弁識能力を欠いていた。

甲及び乙の罪責について論じなさい。